青少年育成センターだより

第１５４号　２０２３．３．１

防府市教育委員会生涯学習課
青少年育成センター
０８３５－２３－３０１３

「根の深さと広がりが　樹の高さと広がりになる」　（教育者　東井義雄）

子どもの「心の根」をしっかり養うことが親の責任と言えるのではないでしょうか。

読書の大切さについて考える

みなさんのお子さんは、本をどれくらい読んでいるのでしょうか？

読書が子どもにとって大切なことだということは、十分理解しておられることでしょう。ある書店で手にした“親が「これ」をするだけで、子どもの学力は上がる”（榎本博明　幻冬舎新刊）という本に、読書の重要性について考えさせられることが記載されていましたのでここで紹介をしましょう。

・子どもの頃の読書活動には、絵本を読むことも含まれ、就学前から小学校低学年の頃に絵本をよく読んだ人ほど、社会性も意欲・関心も論理的思考力も高いことが判明しました。

・読書量と語彙力の関係については、多くの調査研究が行われていますが、就学前の幼児を対象とした調査研究、小学生を対象とした調査研究、中学生や高校生を対象とした調査研究、大学生や大学院生を対象とした調査研究のどれをみても、読書量が多いほど語彙力が高いといった傾向が一貫して示されています。

・親が楽しそうに本を読んだり、本に没頭したりしている様子を見ていれば、子どもも本に対して肯定的なイメージをもつはずです。

・まだ字をちゃんと読めない子どもにとって、大好きな親と本を一緒に読んだり、読み聞かせをしてもらったりするのは、とても楽しいことなのです。そうしたことを習慣づけることで、本というものがとても身近な存在になり、読書に対しても肯定的な印象をもつようになるのです。

・小学校に入ってから勉強についていけなくなるといけないからと、小学校でやることになる勉強を先取りして、計算を習ったり、漢字を習ったりさせる家もありますが、そうした勉強をするより、読書によって意欲や忍耐力、共感性などの非認知能力を高めておくことの方が大切と言えるでしょう。それに加えて、読書によって非認知能力の基礎とも言える読解力を鍛えることができます。非認知能力が高ければ、意欲的かつ忍耐強く勉強にも向き合えるし、クラスにも溶け込みやすく、良好な学習環境が得られます。

・わが子の将来のためを考えると、家の蔵書数を多くしたり、絵本や児童書の読み聞かせをしたり、図書館や書店に頻繁に連れ出したり、親自身が本を読む姿を見せたりと、幼い頃から読書環境を整えて、本に馴染ませてあげることが大切です。現在のスマホ依存的な世間の動向をみると、幼いうちに読書習慣を身につけておくことは、ますます重要になると思います。

読書が良いからと言っても、子どもに「読みなさい!」と口で言うだけでは好んで本を読む子どもには育たないようです。親が楽しそうに本を読んでいる姿を見せることで子どもが本を読もうという気持ちになるのです。まずは、お父さん、お母さんの読書活動を見直してみましょう。

文責＝青少年育成センター指導員　藤村